

2023 年 3 月期 ESG 説明会 質疑応答要旨

- Q1. 従業員のエンゲージメントの取り組みについて、組織の壁を壊す施策はあるか。
- A1. 事業本部制になり、事業部長が販売と生産を担当することで壁はかなり崩れていると考えています。自動車、産機、補修の各事業本部に工場と販売会社があり、風通しの良さは改善しています。
- Q2. カーボンニュートラルの取り組みをどのようにブランドの高付加価値化や業績アップにつなげるのか。
- A2. カーボンニュートラルへの取り組みは大きく 2 つあり、商品によるエネルギー低減を極める点と、商品の製造工程で CO₂ を削減する点です。後者について、施策としてはエネルギーの見える化によりエネルギーのムダを減らします。化石燃料を使っている熱処理設備は極力電化に切り替え、供給が進めばグリーン電気を製造に用います。CO₂ を減らすためにコストアップしないように考えています。国によってインフラの状況が違ふことから国の状況に応じた対応が必要です。ブランド価値にどのように変えていくか考慮し、エネルギーのムダの削減とグリーン化を図ります。
- Q3. 小松さんから見て鵜飼さんが社長に就任してから取締役会の議事の進行やテーマなどに良い面、悪い面でのどのような変化があると感じるか。
- A3. 良い変化しかないと感じます。鵜飼社長はリーダーシップが強く、会社の方向性や取るべき施策を明確に打ち出しています。スピード感もあり、例えば価格転嫁の話でも具体的なアクションを含めて明確な指示が示されています。また社外取締役は活発に意見を言いますが、それに対する的確な回答やその後の報告があり、効率性や質疑の内容が改善していると感じます。
- Q4. 鵜飼さんからもひと言お願いしたい。
- A4. 企業価値を高めて新たに社会や世界で認められる会社になるため、全社一丸となって取り組んでおり、今後も活動を加速してまいります。
- Q5. しゃべる軸受の進捗を知りたい。実用化するまでの期間と今後どういったことが必要なのか。
- A5. 今後はさらなる小型化や高温対応が必要です。現在は振動と温度のセンサを内蔵していますが、別の技術情報などニーズをプロトタイプで探っています。しゃべる軸受の特長は軸受のサイズ、体積が変わらず、お客さまが現在使用している箇所にそのまま使っていただける点です。お客さまから高い関心を集めており、商用化の時期は来期すぐとは言い切れませんが、なるべく早く商品化します。しゃべる軸受はすべてのコンポーネントが軸受内部に入っていて、コンパクトだけでなく異常検知の精度も高く、この点も評価されています。
- Q6. ガバナンス面におけるダイバーシティの考え方について。日本人以外を役員に登用することについての考えを知りたい。
- A6. フランス人の執行役員が日本で勤務していたこともあり、海外地区のトップには現地人を置いているところもあります。そうした方の中から執行役メンバーに入ってもらうことも考えています。グローバル企業としてトップマネジメントのダイバーシティをどうするか、外国の方だけではなく女性も含め、企業活動における課題に対するひとつの手段としてのダイバーシティをどうすべきかを検討してまいります。

Q7. 過去の統合報告書で本社部門にグローバル本社としての認識が不足している、役員会議で海外に関する議論がないという指摘もある。この点は改善しているのか。

A7. 海外を含めて現場が一番大事です。執行役メンバーが少なくとも担当地区には直接行って、現地従業員とのエンゲージメントを結ぶ活動がベースにあると考えています。コロナの状況も変わっているのでこうした動きを取り入れつつあります。

以上